

令和2年度「こころに残るひとの営み景観」応募作品一覧

番号	エピソード	写真
25	『コロナだんじり祈願』 今年はコロナのため、だんじり祭がとりやめになりました。大変残念なことであります。長い歴史と伝統の中で、コロナ対策祈願を行うことにより、来年こそは地域の賑いを取りもどしてほしい。(70歳男性)	
26	『ミカン小屋が創る山里の景観（阿間河滝町）』 美しい木割と梯子のミカン小屋が創る風景は泉州山里の営み景観(72歳男性)	
27	『産業遺産と祭の詰所（大手町）』 浜の名所煮干蔵前に陣取る相談役詰所、歴史の営みを感じさせる景観(72歳男性)	
28	『真夏の石垣掃除（岸城町）』 岸和田城の複雑な石垣を舞台に展開される夏恒例の草刈り風景(72歳男性)	
29	『人垣とだんじり（北町）』 前後左右皆人垣、町の誇りみせちゃろか！(72歳男性)	
30	『頼もしい応援団（本町）』 いつまでも見守り隊！追っかけ隊！娘と母のド根性風景(72歳男性)	

令和2年度「こころに残るひとの営み景観」応募作品一覧

番号	エピソード	写真
31	『古代の人々の営みを思い私たちは確かめる』 2018年5月和歌山大学岸和田サテライトと岸和田市図書館との共同企画の「久米田を編集する」という地域の情報をオープンデータとして公開し、地域活性化につなげていくイベントが久米田寺付近で行われた。久米田寺付近は古代から人々の営みが行われ多数の古墳がある。久米田寺のすぐ隣の貝吹山古墳の上から市内を見渡すと今の私たちの営みが広がっていた。人の営みをつないでいる景観を実感した瞬間だった。(76歳男性)	
32	『岸和田ボランティアガイドの研修風景』 コロナ禍でひっそりとしたお城の庭で、次のガイドを育てるための研修中です。訪れた方々に、岸和田の歴史や文化を熱く語り、楽しんでいただきたいと頑張っています！(65歳女性)	
33	『地蔵浜のいわし巾着組合 荷捌き場』 大阪府下のすべてのバッチ漁船が、岸和田市地蔵浜の鱈（いわし）巾着網漁協の荷捌き場で獲ったシラスやイカナゴを卸します。いっせいに船が寄港し、シラスを積んだかごを上げていく様子です。後ろには水揚げの順を待つたくさんの漁船がたたくその景観に、岸和田の浜の賑わいを肌で感じます。(43歳女性)	
34	『岸和田名物のマイワシの出荷』 漁師が主人公の演歌、鳥羽一郎「泉州春木港」で歌われた春木漁港で、遅い梅雨が明けた頃マイワシの出荷作業が行われていました。岸和田で水揚げされる大羽イワシは金太郎イワシとも呼ばれ、全国的にも有名なブランド魚となっています。たくさん水揚げされたマイワシが手早く箱詰めされる様子は、活気があふれていました。(43歳女性)	
35	『若い世代へと受け継がれていく漁』 岸和田市の沖合にて、巾着網漁で獲れた魚をフィッシュポンプで運搬船に移し替える作業のようすです。若い漁師さんたちも日々厳しい自然と向き合いながら頑張っています。運搬船に移されたイワシやアジなどの魚は、素早く岸和田の港に運ばれます。漁場が港から近いこと、そして関西国際空港や阪神高速インターが近くアクセスが便利なことから、岸和田の巾着網漁で獲れた魚は新鮮なうちに日本各地へと出荷されています。(43歳女性)	
36	『お堀のいろどり』 岸和田城は私にとって50年来のシンボルであり心のよりどころです。四季を通じてさまざまな姿を見せてくれ、いつ見ても癒されます。(71歳男性)	

令和2年度「こころに残るひとの営み景観」応募作品一覧

番号	エピソード	写真
37	『久米田池』 写真は、久米田池で、手前の「満水標」の頭が約50センチ見えています。これらの水が、久米田池下流に広がる田を潤し、米を育てた証です。(60歳男性)	
38	『世代を超えて』 勇壮なだんじりを追いかけて。いつの日か、子供と手をつないでだんじりを追いかける。世代を超えて、人々の営みが垣間見える。こころに残る景観です。(47歳女性)	
39	『時代の移ろいとともに』 江戸時代には岸和田城二の丸へと続くこの場所は、郡役場から現市役所庁舎へと時代の移ろいとともに変化しました。令和の時代になって新しい市役所庁舎がどんな時代へとバトンタッチしていくのか今から楽しみです。(53歳男性)	
40	『一年の終わりと始まり』 岸和田のカレンダーは9月始まり。そんな街の風景を表すように軒先に提灯が並ぶ。この灯(ともしび)を見かけると一年の節目を感じます。(53歳男性)	
41	『昔も今も時を刻む商店街』 小学生当時の頃は、子どもながらに、まるで心齋橋のように人が溢れ、活気があったように思います。繁華街を求め、「岸和田に行こか」と映画に、ニチイに、ムサシヤに、そしておもちゃ屋にと訪れ、わくわくしました。今では、お店も人通りも当時よりは減っていますが、祭りやどんチャカフェスタの時は、その活気が当時のように戻り、懐かしく、タイムスリップしたかのように当時を思い出します。お店は変わりつつありますが、今なお、当時のおもちゃ屋さん、八百屋さん、お餅屋さんなどもあり、建物も・通りも・人も、岸和田の息遣い(「誰もが」の営みそのもの)が感じられ、間違いなく岸和田を代表する商店街通り(岸和田駅前通商店街と闇市商店街(城見橋筋商店街))です。全国でも少なくなってきたアケード商店街、風情があります。皆さんも、ぜひ訪れ、肌で感じとって下さい。活気ある風景と岸和田の人情がいつまでも続きますように。コロナに負けるな!(52歳男性)	
42		

令和2年度「こころに残るひとの営み景観」応募作品一覧

番号	エピソード	写真
43	『坂をのぼって、ちょっと一息』 中島池公園から土生中学校方面に向かって長い坂を登った先にある、小さな公園です。孟正寺池を背景に、綺麗に手入れされた季節の花々(地域の方々によるものとお聞きしました)が美しく咲き、とても気持ちの良い景色です。子どもたちとの散歩の休憩場所としてよく利用させていただいています。(奥の方に草が生えている場所は手入れが難しそうです、市のほうで整備いただけるとより美しい景観になるかと思います…) (40歳女性)	
44	『みかん畑と牛神の森』 稲葉町の和泉市寄りの丘に牛神さんが祀られています。みかん山の頂上付近の鎮守の森の奥に在り、細々ですが少人数で守っています。この丘からの眺望は大変気持ちがよく、新しく出来た岸の丘町の発展の様子も奥に見ることができます。小さい頃遊んだ森がなくなるのは寂しいものがありますが、この地域が賑わう未来が楽しみでもあります。(54歳女性)	
45	『岸和田観音 節分』 いにしえから災害や疫病から身を守るために祈ってきた人々。お参りに来ているたくさんの人の姿に時代が変わっても人々の気持ちは大きく変わらないのだな、と気づかされる。古い時代にも、きっと同じような景色があったはずというノスタルジーな気分になれるひとこま。(44歳女性)	
46	『久米田寺千本搦ぎ』 新しい年の始まりの風物詩とも言える久米田寺の千本づき。たくさんの細い杵でお餅を搦く様子は家庭とは違った趣きがあり、地域の人たちの中で受け継がれてきた営みとしてテーマにぴったりだと思いました。(44歳女性)	
47	『みんなのために』 私は小さい頃に一度、岸和田城にある八陣の庭の青海波を体験させてもらったことがあります。それが今でも印象に残っていて、私にとっての岸和田のひとの営みだと思いました。時々岸和田城に行きますが、いつもきれいな青海波を見ることができるのは、この方々が私たちや観光客のためにやってくれているからだ、と写真を撮りながら思いました。この写真を撮りに行ったときに体験させてもらいましたが、とても大変だったので、改めてすごいなと感じました。(16歳女性)	
48	『たくさん釣りたい』 この日は僕も釣りに来ていて、1匹も釣ることができなかったです。帰り際に撮りました。後ろの船にはたくさんの魚が乗っているんだろうなあと思いき、僕もたくさん釣りたいなあと思いました。そして、手前の釣人たちにはたくさん魚が釣れるようにと心の中で願って帰りました。(15歳男性)	

令和2年度「こころに残るひとの営み景観」応募作品一覧

番号	エピソード	写真
49	『1日の出発点と終着点』 学校が終わって帰ろうと駅に向かってしていると踏切の音が鳴り始めて、走りましたがバーは降りてしまいました。落胆する私の前を電車が通りました。その時に撮った写真です。この写真は朝にも夕にも思え、光る先へ行く電車の中の様々な人の生活や思いが自然と見えてくると思います。電車に乗る人も乗らない人もこの写真をきっと身近に感じます。(16歳女性)	